

水・緑と観光を繋ぐ回廊計画の現状と今後について

1 計画の位置付け及び目的

水・緑と観光を繋ぐ回廊計画は、第4次長期総合計画の将来都市像を具体化するための方針を「水」、「緑」そして「観光」という観点で構想するものであり、まちづくりの基本目標である「魅力ある温かいみずほ」「快適で美しいみずほ」を達成するための基本的な道筋を示すものです。

自然環境資源・景観資源と各拠点を結びつけ、互いに連携させることで、来訪者の回遊性を高め、観光の振興を図ることを目的に策定され、長期総合計画将来都市像「みらいに ずっと ほこれるまち」の具体化及び基本理念の協働型社会形成を目指すこととしています。

2 これまでの経緯

- ・平成23年度 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画策定
- ・平成24年度 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画推進協議会及び各部会発足
- ・平成25年度 計画概要パンフレット全戸配布、愛称・ロゴマーク決定
- ・平成26年度 若手職員プロジェクトチーム編成
- ・平成27年度 PR動画配信
- ・平成29年度 当初計画の見直し
- ・平成30年度 みずほ☆きらめき回廊ウォーキングマップ作成
- ・令和2年度 計画期間終了

3 計画の各種整備状況・成果

(1) 拠点整備

- ・「郷土資料館けやき館」 平成26年度整備完了
耕心館と一体となった運営をし、町内外から多くの来館者を迎える施設に成長（令和元年度に来館者20万人達成）
- ・「さやま花多来里の郷」 平成28年度整備完了
カタクリの見頃だけでなく年間を通じて楽しめる施設として運営。
町の観光スポットに発展
- ・狭山池上流部 計画見直し

(2) ルート整備

回廊ルート整備部会と連携して事業を進め、「歴史と文化とモニュメントの回廊」、「農と水辺とエコロジーの回廊」、「史跡と水を巡る回廊」、「狭山丘陵と眺望の回廊」の基本4ルートを設定しました。

平成26年度からは、各ルートの特殊カラー舗装等を道路舗装工事に合わせ順次進め、拠点を結び、町の魅力を感じながら歩ける道を整備しました。

(3) サイン整備

観光部会で協議を重ね、案内サインを平成29年度から令和元年度の3か年で、回廊ルート上に計16基設置し、住民の方や町を訪れる方にとってより分かりやすく町を巡ることができるよう整備しました。

(4) 狭山池上流部整備

当初のクラブハウス建設等の計画から狭山池上流部地権者意向調査やワークショップを経て、狭山池上流部を「景観ゾーン」、「交流ゾーン」、「生産ゾーン」にゾーニングし、ひまわり畑づくりや小麦畑づくり（不耕作地解消事業）等のソフト事業を実施してきました。ハード事業として道路、排水路及び共同利用施設（駐車場、トイレ等）の整備を進めるため、平成30年度に狭山池上流部調査設計を実施しました。その結果、費用対効果分析による費用便益比が極めて小さく、事業実施の効果が見込めないことから東京都の補助金の確保も不可能となり、調査設計の計画内容でのハード事業の実施は、断念せざるを得ないこととなりました。

今後、農業振興地域である狭山池上流部については、ソフト事業の充実を図りながら、引き続き農業振興のための拠点としての整備を検討していきます。

4 計画の終了時期

本計画の2つの柱である「拠点整備」と「ルート整備」について、一定の整備を終え、けやき館やさやま花多来里の郷などの拠点がルートで繋がれ、来場者増加等効果が表れています。狭山池上流部については、ソフト事業の充実を図りながら、農業振興のための拠点としての整備を検討していきます。本計画は、第4次瑞穂町長期総合計画を具体化するために策定されたものであることから、第4次瑞穂町長期総合計画の終了時期となる令和3年3月31日で計画期間を終了としますが、計画期間終了後も「みずほ☆きらめき回廊」の愛称・ロゴマークは継続し、必要に応じて案内サインや回廊ルート等の整備を行います。

5 今後の予定

令和2年10月22日

議会全員協議会に報告

令和3年 3月

水・緑と観光を繋ぐ回廊計画推進協議会

令和3年 3月31日

計画期間終了

令和3年 4月～

舗装の打ち替えに合わせて、必要年度にルート整備を実施する。

東京都建設局西部公園事務所と協議し、狭山丘陵への案内サインの設置に努める。また、状況に応じて、説明板等を設置する。